

14

自治
税務
局ふるさとを
思いながら

■ PROFILE Kimura Tomoya

平成23年	4月	総務省採用 大臣官房秘書課
平成24年	4月	自治行政局地域自立応援課地域振興室
平成25年	4月	熊本県総務部市町村・ 税務局市町村財政課
平成27年	4月	現職

自治税務局企画課

木村 友哉

平成23年入省

とある
一週間

● 月曜日

局内の週間日程を確認。上司と仕事の進め方を相談します。

● 火曜日

担当の税目について、地方自治体からの問い合わせに対応します。

● 水曜日

国会議員事務所の問い合わせに対応します。

● 木曜日

担当業務の懸案事項を検討。制度には歴史があるため過去の整理も確認します。

● 金曜日

検討内容を整理した資料を作成。上司からの指摘を踏まえ修正を加えます。

🔊 自治税務局の仕事

税金には国税と地方税があることをご存じでしょうか。自治税務局では、住民税や自動車税などの都道府県、市町村が徴収する地方税の企画・立案を行っています。地方税は自治体が教育、福祉、消防などの行政サービスを提供するために欠かせない財源ですが、課税については国民の生活と密接に関連するため、様々な角度から検討し、各方面と意見調整が必要です。具体的には年末にかけて行われる税制改正の議論を通して法律が改正されていくのですが、私の所属する企画課はそのとりまとめ役となり、資料の調整や会議の段取りなどを行います。改正の過程では国民生活、経済、自治体の税収に与える影響など幅広い視点から白熱した議論が繰り広げられ、その模様はテレビや新聞でも取り上げられます。制度が作られていくプロセスを間近に見て、自分が携わる仕事に責任の重さを感じますが、重要な決定の場に立ち合えることに大きなやりがいも感じています。

🔊 国と地方での経験

地元を元気にしたいという漠然とした理由から総務省に入省して約5年が経ちました。5年の間に予算要求の事務、地域づくりを頑張っている団体の表彰事務や、熊本県に向向した際は市町村が財源確保のために発行する地方債のチェックや決算分析などを通して、総務省にいただけでは分からなかった市町村の実情やそこに住む人たちの思いを知り、自分の仕事が地方公共団体に与える影響を常に意識するようになりました。当時一緒に働いた先輩や同僚は、今でも仕事の相談をしたり、遊びに行ったり、公私ともに支えになってくれる大切な存在です。日々勉強することはとても多いですが、右も左もわからなかった頃に比べると、少しずつですが、自分自身の成長も実感しています。地方を思い、様々な地域の職員と広いフィールドの中で仕事ができるのは総務省の大きな魅力だと思います。国と地方の業務に興味がある方は、是非一度職員の話聞きに来てみませんか？



Private Time

休みの日は友達と飲みに行ったり、旅行に行ったり、なるべく外に出るようにしています。また、総務省で一緒に仕事をした自治体職員が地元へ遊びに行ったり、逆に東京へ遊びに来てくださったり、改めて人とのつながりの大切さを実感しています。